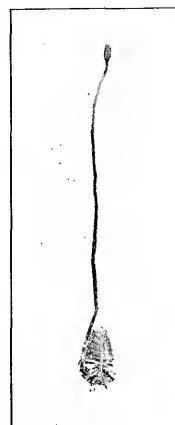


ハ數個箱入りニシテアツテ其何レモガカムシノ類（のこぎりカムシ、はさみカムシ、はねあかあをカムシ、はらびろカムシ、まへきりカムシ等）カラ發生シ其寄生ノカムシ類ノ名稱ハ故三宅恒方博士ガ自筆デソレヲ書キ入レタモノデアツタ



かきだけ
(*Cordyceps nutans* PAT.)

コノミムカキだけト云フ奴原ハカムシナラドンナ種ニデモ寄生スルト見エ日本菌類目錄ナドヲ見ルト寄主トシテカムシ、いぶきカムシ、はらびろカムシ、くるすぢカムシ等ヲ擧ゲテコノ菌ヲミムカキだけ、カムシしたけナドト呼デ居ル

本菌ニ就テハ海外ノ書ニモ見エル又東京植物學雑誌第二十八卷三百三十二號ニモソノ記事ガアルカラ素人ガイマ頃蛇足ヲ添ヘル必要ヲ認メナイ
昨年ノ九州旅行中同行ヲ願ツタ前原勘次郎君ガ肥後ノ矢嶽デ見付ケタモノヲ拜領シテ來タカラ之レヲ寫真ニ撮

リ此ニ掲ゲテ關東方面ノ君子ニ御覽ニ入レルコトニシタ
コノ實物ハ丈二寸程デ軸ノ大半ハ黒色ニシテ光澤ヲ有シ頂部ハ朱色デアル寫真ノ不鮮明ナノハコノ原色ニ基因スルトモ言ヒ得ル

○素人ノ立場

久 内 清 孝

人間ト云フ生物ニハ自己以外ノ自然物ニ勝手ニ名ヲツケ又タ他人ノツケタ其名ヲ知ラントスル慾望ノアルコトハ疑フベカラザル事實デアル然シテ文化ノ進ンダ人間ニアリテハコノ慾望ハカナリ強クマタ個人トシテコノ慾望ヲ或程度ニマデ充タシタモノハ教養アル人トシテ自他共ニ許ス様ニ思ハレル

論語ノ陽賈篇ニハ「多識於鳥獸草木之名」ト云フ句ノアルコトハ汎ク人ノ知ル所デアルガ、コノ句ハ詩經ハ學バナケレバナラナイ苟モ教養アル人タラント欲セバ詩經ハ學ズベキ書デアル其理由ハコレト色々ナ理由ヲ述ベテ終リニ此ノ句ガアルノデアルカラ孔子ノ時代ニ於テモ博物學的知識ハ紳士ノ教養ノ範疇ノ一ツト數ヘラレタコトガ判ル

今日ニ於テモコレハカハラナイサレバ種々ノ犠牲努力ヲ愛マズニ自然物ノ名ヲ知ラントスル人ハ跡ヲ絶タナイ他ノ部門ニ屬スルモノハ姑ク置キ植物丈ケデモ其名ヲ知リタサニ憂キ身ヲヤツシテ居ル人ガ洋ノ東西ヲ問ハズカナリナ數ニ達スルコトデアラウ勿論文化諸國ノ全人口ノ上カラ言フナラ割合ハ少ナカラウガ其レデモ生ヤサシイ數デナイコトハ疑ヒナカラウ

サレバ海外諸國ノ新刊書ヲ見ルト人ノコノ慾望ヲ満足サセル(善意ニ解シテ)爲メノ刊行物ヲ相當ニ見受ケルマタ我國ニ於テモ同様デアルガ幸カ不幸カ我國ノ「フローラ」ハ仲々豊富デ専門家デサヘマダ全部ニ通ジ得ナイト言フ程デアルカラ素人ガ廻亂ヲ背負ッテ少シ位歩イタ位デハ到底自己ヲ満足サセルコトハ出來ナイ

聞ク所ニヨレバ獨逸デハ薬劑師ニナルノニハ五十種ノ植物ヲ知レバ足ルトノコトデアルガ我ガ日本ニ於テハ小學校ノ教師トシテ約六百種ヲ知ラケレバナラナイ、コレハ文部省ノ命ニヨリ牧野先生ガ作ラレタ普通植物檢索表ニ約六百ノ草本ガ舉ゲラレテ居テ文部省ノ名ニヨリテ書イテアル序文ニヨルトコレガ小學校教員ノ植物ノ知識ノ基準トナツテ居ルラシイ從テ中等、高等教員ニナルトコレハ専門ニナルカラ更ニ多クヲ知ラナケレバナラナイ筈デアル

然シ假リニ六百知ッタニシテモ野外ニ出タラ田舎カラ二度位東京ニ來タ人ノ東京ノ知識ニ過ギナイ、ソレハ其筈東京ノ周圍丈デ千二三百種モアル上ニ東京附近デサヘマダ學界未知ノモノナドガ稀レニハアルノダソウダカラ致方ガナイ

其故コレ等ノ植物ハ既刊ノ圖譜ノ程度ノ書ニヨツテ其總テヲ解決スルコトハ到底望マレナイ、其處デ素人トシテ植物ノ名ヲ知ラントスレバ國民ガ見セテ貰ヘル標本館ノナイ我國トシテ専門家ノ教ヲ乞ハナケレバナラナイコトニナル

コノ専門家モ日頃公私ノ用事モアルコトダカラ無暗矢鱈ニ教ヲ需メル譯ニハ行カナイガ幸ニ教ヲ需メ得ラレタ場合斯ノ如キ人ハ如何ナル心掛ガ必要カト言フコトニナル是レ今余ノ言ハントスル所デアル

ヨク世間ニアルコトダガ誰レハ斯ク言ツタ然カシ他ノ某先生ハ斯ク言フガコレデハ歸趣ニ迷フト、如何ニモ尤千萬ナ言草デアル然シコレハ我國バカリデハナイ L. H. BAILEY, Botany an elementaly text for School ノ第21百七十五頁ニヨンナコトガ書イテアル What one botanist considers as a distinct species, another botanist may regard as only a variety or form of another species.

コレハ人ニ教ヲ乞フモノ、平素頭ニ入レオタキ言デアルト思フ、日本ノ教科書ナドヲ見ルト學問ノ權威ノ爲メカコンナコトハ書イテナイガ然シ私ハ BAILEY ノ言フロトハ現在ノ世相トシテ眞實ナ言ヒ分デアルト思ハズニ居ラレナイ何ントナレバ科トカ屬トカ種トカ言フ様ナモノハ Kew ノ HUTCHINSON 氏ノ語ヲ借リテ言ツテ見レハ Sometimes very much a matter of taste and personal idiosyncrasy ノアルカラデアル、勿論一ツノ植物ニ一ツノ名ガアル丈デアルニ相違ナイガ其レハ理屈デアツテ之ヲ取扱フ學者モ心理學上ノ對象トナツテ居ル種々ナル心的現象ノ出現スル可能性ヲ備ヘタル人間デアル以上見方ガ人ニヨリ區々ニナルノハ免レナイコトデアラウ

其故我々素人ハ少シク繁雜カモ知レナイガ一植物ニツキコレハ誰ノ何ト云フ種ト云フ様ニ覺エ若シ他ノ學者ガ別名ヲ呼シダ場合ニハ其人ノ何ント呼ブモノト承認シテオケバソレデ充分デアルト考ヘラレル何モアナガチ一元的名稱ヲ得ヨウト苦勞スルニモ及ブマイト思ハレル

ソンナコトヲ言フテハ學問ノ進歩ガナドトフン慨スル士モアルカモ知レナイガ我國ノ様ニ専門學徒ト素人トノ
權利ガ判然トシテ繩張リノ定マツタ社會ニ於テハ學問ノ進歩ハ學者ノ方デ充分ニ考慮サレテ居ルカラ素人ハソ
コマデ跳リ出ス必要ハナイ次第アル
タゞ一寸了解ニ苦ムコトハ文政當局ハ學校ノ過程トシテ博物的知識ノ普及ニハ明治初年以來相當ニ注意ヲ怠ラ
ナイ様デアルガ素人研究ニ對シテハ何等カノ便利ヲ圖ッタ實蹟ノナイコトデアル、外國ニハ博物館ガアツテ隨
分公衆ノ便ヲ圖ッテ居ル様ダガ我日本ニハマダナイトノコトデアル文化國ノ體面ト云フコトハ人民共文デ考ヘ
テ居タツテ始マラナイト思フガ此邊ハドンナモノダラウ、僕ハ外國ノ博物館カラ標本ヲ貰フコトガヨクアルガ
日本デハソンナ名前ノ建物サヘアルカナイカ判ラナイ若シ萬ガ一國際聯盟アタリカラ博物館ノ數デモ調査サレ
タ場合マサカ我國ニハ特殊ノ事情ガ有之トモ言ヘマイガドンナモノダカ素人ニハサツバリ判ラナイ

若シ公衆ニ開放スル標本館ノ如キモノハ國費多端ノ折柄設立困難デアルナラ現在ノ官有財產トシテ存スル標本
ノ貯藏所ヲ臨時ニ利用スルコトヲ忘レテハナラナイ夫レニハ色々面倒ナ内規ヤナニカゞ障害ヲナスカモ知ラナ
イガ官廳内ノ内規ガ果シテ國民ニ對シドレ程ノ理由ニナルカコレハ憲法上ノ問題デアラネバナラナイ夫レモ行
政上秘密ヲ要スル様ナ場合ニハ公安ヲ維持スル上ニ必要ナルハ論ナキ所ナルモ官有財產デアル學校ノ標本室ノ
如キヲ開放スル如キハ決シテ公安ヲ害スルモノトハ言ヘナイ、國家ノ官吏中ニハ自己ノ監督スル官有財產ヲ私
有物ノ如ク心得テ自己ノ感情ニヨリ其ノ公開ヲ拒ムガ如キ態度ヲ持スル輩モナキニシモアラズデアルガ是等ハ
公衆ノ知識慾ヲ理由ナク抑壓シテ學問普及ノ妨害ヲナスモノデ文政當局ノ爲メニハ獅子身中ノ蟲デアルト言ハ
ネバナラナイ

以上ハ勝手ナ熱カモ知レナイガ選舉演說會場ニ學校ヲ使用ノ出來ル今日デアルカラコノ位ノ熱ハ平熱ダラウト
信ズル